

# 創作余談

太宰治

青空文庫



創作余談、とでもいったものを、と編輯者へんしゅうしゃからの手紙には  
しるされて在った。それは多少、てれくさそうな語調であつた。  
そう言われて、いよいよよてれくさいのは、作者である。この作者  
は、未だほとんど無名にして、創作余談とでもいったものどころ  
か、創作それ自体をさえ見失いかけ、追いかけて、思案し、背中む  
け、あるいは起き直り、読書、たちまち憤激ちまた、巷ほうちうを彷徨、歩き  
ながら詩一篇などの、どうにもお話にならぬ甘つたれた文学書生  
の状態ゆえ、創作余談、はいそうですか、と、れいの先生らしい  
苦心談もつともらしく書き綴る器用の真似はできぬのである。

できるようにも思うのであるが、私は、わざと、できぬ、とい

う。無理にも、そう言う。文壇常識を破らなければいけないと頑固に信じているからである。常識は、いいものである。これには従わなければいけない。けれども常識は、十年ごとに飛躍する。私は、人の世の諸現象の把握はあくについては、ヘエゲル先生を支持する。

ほんとうは、マルクス、エンゲルス両先生を、と言いたいところでもあろうが、いやいや、レニン先生を、と言いたいところでもあろうが、この作者、元来、言行一致ということに奇妙なほどこだわっている男で、いやいや、そう言ってもいけない、この作者、元来、非惨を愛する趣味家であつて、安心立命の境地を目して、すべて崩壊の前提となし、ああ、あとの言葉は、諸兄のうち、

心ある者、つづけ給え。

このように、作者は、ものぐさである。ずるい。煮ても焼いても食えない境地にまで達しているようである。憎いか？

憎いことはないだろう。私は、いまのこの世の中に最も適した表現を以て、諸兄に話かけているだけなのである。私は、いまのこの現実を愛する。冗談から駒の出る現実を。

判るかね？ 不愉快かね？

君自身、おのれの不愉快な存在であることに気づかなければいけない。君は、無力だ。

非難は、自身の弱さから。いたわりは、自身の強さから。恥じるがいい。

自己弁解でない文章を読みたい。

作家というものは、ずいぶん見栄坊であつて、自分のひそかに苦心した作品など、苦心しなかつたようにして誇示したいものだ。

私は、私の最初の短篇集『晩年』二百四十一頁を、たった三夜で書きあげた、といつたら、諸兄は、どんな顔をするだろう。また、あれには十年たつぷりかかりまして、と殊勝らしく伏眼でいつたら、諸兄は、どんな顔をするだろう。その態度を、はつきりきめていただきたい。天才の奇蹟きせきか、もしくは、犬馬の労か。

合あい憎にくのことには、私の場合、犬馬の労もなにも、興きざめの言葉で恐縮であるが、人糞じんぷんの労、汗水流して、やつと書き上げた二百なにがしの頁であつた。それも、決して独力で、とは言わな

い。数十人の智慧ある先賢に手をとられ、ほとんど、いろはから教えたたかれて、そうして、どうやら一巻、わななくわななく取りまとめた。

面白いかね？

すこし冗談いいすぎたようである。私は、いま、机の前に端座して、謂わば、こわい顔して、この一文をしたためている。この一文にとりかかるため、私は、三夜、熟考した筈である。世間の常識ということについて考えていた。私たちは、全く、次の時代の作家である。それは信じなければいけない。そう在るべく努力してみなければいけない。意の在るところの一端は、諸兄にも通じたように思う。

私は、このごろ、アレキサンダア・デユマの作品を読んでいる。



# 青空文庫情報

底本：「もの思う葦」新潮文庫、新潮社

1980（昭和55）年9月25日発行

1998（平成10）年10月15日39刷

入力：蔣龍

校正：今井忠夫

2004年6月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

# 創作余談

太宰治

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>